ジブチの女性たちの力になりたい

JICA青年海外協力隊でジブチへ派遣

萩原　光子さん　38歳

JICA（国際協力機構）の青年海外協力隊として、3月31日からジブチ共和国に派遣された萩原さん。派遣期間は2年間。派遣先のバルバラ女性研修センターで授業観察をし、改善点の指摘や授業活性化の助言などを行う。

「より良い授業ができるようにサポートをしたいです。現地の女性たちの自立支援に少しでも役立つことができれば。そのために、現地の人たちと協力しながら、ニーズに合った活動をしたいと思っています」

高校卒業後、米国の大学に進学。帰国後は、専門学校で実習助手として勤務するなど、社会人としての経験を積んできた。

「途上国の人たちのために何かしたいという気持ちは、心の中にずっとありました。やっと巡ってきたチャンスに期待が膨らんでいます。現地での生活に慣れたら、難民キャンプなどにも活動を広げていきたいと思っています」

萩原さんは、公用語のフランス語の習得に力を注いできた。休日は、現地の人たちと現地の音楽やダンスなどを楽しんで過ごしたいという。

「きっとジブチは、日本とは時間の流れが全然違うでしょうね。まずは、現地の人たちのやり方を学び、人間関係を築くところから。焦らず一歩一歩進めていきたいです」

萩原さんの熱い思いは、ジブチの女性たちの自立への大きな後押しとなるに違いない。

赤城の恵ブランド

前橋市長100点満点之太鼓判

vol. 9

内山英明さんのキャベツ

空っ風の吹く赤城山麓の前橋で、妥協を許さず、手間を惜しまず、生産者が作った「赤城の恵ブランド」の認証品。今回は「内山英明さんのキャベツ」を紹介します。

■春キャベツが認証品

認証を受けたキャベツは、秋に植え付け、春から初夏に収穫する春キャベツ。堀之下町や上泉町の畑で作っています。除草には農業用作業機械を使い、除草剤を使わない取り組みや、堆肥による土作りを行っています。安心安全な農作物の生産に取り組む計画は、県から「エコファーマー」の認定を受けました。

■大きくなるのが楽しみ

ムクドリによる鳥害や大雪の被害を心配していましたが、4月の天候が安定すれば例年並みの収穫が期待できそうです。大きく成長したキャベツの収穫は、生産者にとって格別です。

■おいしい召し上がり方

内山さんのキャベツは、葉が柔らかく甘みが強いことが特長です。サラダなどの生食や、蒸してポン酢で食べるのもお薦めです。

■農産物直売所などで販売

市内の農産物直売所を中心に、東京など県外で4月下旬から販売予定です。

■健康・栄養

ビタミンC・K、カルシウムが豊富で、疲労回復や骨の形成に貢献。キャベジンと呼ばれるビタミンUを含み、胃や十二指腸の潰瘍の予防や、治療に効果があると言われています。

■生産者からのメッセージ

「春キャベツは前橋産」と言われるようなおいしいキャベツができるよう頑張っていこうと思っています。

問い合わせは
内山さん　☎090−5335−4738

前橋市推奨 赤城の恵ブランド認証品

クローズアップ CLOSE-UP

学生がまちなかイベントで奮闘

3月9日、中央イベント広場で市内の学生たちが、まちなか活性化イベントの「学市」を開催しました。フリーマーケットや紙折り教室など、多彩な催しに多くの人出が。初代佐渡ヶ嶽（たけ）ちゃんこも振る舞われ、訪れた人たちは思い思いの週末を楽しみました。

地域の視点から多彩な表現

前橋を拠点に活動するアーティスト・白川昌生さんの個展「白川昌生　ダダ、ダダ、ダ　地域に生きる想像☆の力」が3月15日からアーツ前橋で始まりました。会期は6月15日㈰まで。白川さんの人生の軌跡ともいえる多数の作品を来場者は熱心に鑑賞していました。

上毛電鉄のお宝グッズを展示

粕川支所では、１階オープンスペースで上毛電気鉄道企画展を開催中。昭和初期から現在に至るまでの写真パネルのほか、鉄道部品、ジオラマなどを展示しています。期間は4月24日㈭まで。展示スペースについては、これからも有効に活用していきます。

ラジオと芋煮で防災力アップ

東日本大震災から３年経った３月11日に、まえばしAction「イモニとラジオ」がQの広場で開催されました。同イベントでは防災力向上のため、まえばしCITYエフエムによるラジオ放送や、200人分の芋煮の炊き出しを実施。来場者に温かい芋煮が配られました。